

『出来事と存在価値は別物』

最近のことでした。午前中、函館での仕事を終えて、お昼は、せっかく函館まで来たので、帰り道にあるラッキーピエロ森町赤井川店（人気ロックグループGLAYの皆さんが、よく行かれていたという事で有名なお店）のミートソーススパが好きなので、食べて帰ろうと立ち寄りましたが、残念ながら、ここでは扱っておらず意気消沈。仕方なく、焼きそばでいいかと注文のために並んでいると、3人組の女子（年齢にすると20代後半、アラサー）たちが入店してきて、「え～混んでる～、並んでる～、何にしようかな～、迷う～、どうしよう～、困る～、お土産も買おうかな～」みたいなノリで、キャピキャピと言いながら、3人で交代交代に、お土産の方に行っては戻りを繰り返しながら、少しずつぼくの前に移動していくではありませんか。順番が近づくにつれ、ウロウロを繰り返しながら、なんだかんだ鼻かんだと確実にぼくの前に出やがったのです。人がいいぼく（ただの小心者です）は、仕方がねえ～な～～と思ひ譲りましたが、今度は、真後ろにいたお爺さん（年齢にすると70代後半）が、アラサーたちが注文している隙に、アラサーたちの真似をするかのように、一旦横に出たと思いきや、少しずつジリジリとぼくの前に出ようとするではありませんか！アラサーたちが注文を終えた瞬間でした！スッと前に躍り出て、間髪入れずに、注文をし始めたのです。目を疑った！目を疑わざる終えない行動に出たのです！まさしく「目を疑う」とはこのことです！あまりにも突然の出来事に言葉も何もかも失い、同時に心の声が「あれ？あれ？そもそも俺のこと見えていますか？」「もしもし？皆さん！俺の存在が見えますか？」とこだまし、自分自身の存在を疑うというか見失うというか、そんな複雑な気持ちを抱いたのです。もしかしたら、ぼくは死んでいるのか？幽霊なのか？いつ死んだっけ？頭の中では、映画「ゴースト」で流れ

た「アンチェインド・メロディ」が流れているではありませんか！冗談はさておき、そうです！ぼくは、2度も存在を無視されたのです！まあ、その出来事と、ラッキーピエロとは全く関係がないので、2度と来るものか！という乱暴な話にはなりませんが、ミートソーススパは食べられないは、2組にも列を越されるはで、自分自身の存在価値と危うく結びつける所でした。しかし、皆さん、ここで拗ねてはいけません。正直驚きましたが、自分の周囲で起きている出来事と自分の存在価値とは、全く別物



ですからご安心下さい、多くの場合は、出来事と存在価値を結びつけて決めつけてしまう人が多いようです。人は誰もが、確実に価値ある人間として存在しています。ですから、自分を責めたり、やっぱりダメな人間だとパターン化する必要などどこにも根拠があり

りません。起きている出来事は、ひとつの要因や誘因にしか過ぎず、それがすべての原因ではないのです。原因と結果の法則に囚われてはいけません。なぜなら、その後、ぼくはちゃんと豚玉子焼きそばを注文し食べる事ができたのですから。

感謝

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
会長 宮崎直人

大空と希望



No 18

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会
広報誌「大空と希望」2018年8月発行
〒060-0001
札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル3F
TEL:(011)208-3320 FAX:(011)204-7312
URL <http://h-gh.net>

「身体拘束廃止に向けて：経営者のコンプライアンス」

介護現場の現状は、慢性的な採用難、止まらない人材流失、増加する利用者虐待及び利用者から介護者への虐待等・高齢者福祉経営は、難しい時代に入ったであろうと感じています。高齢者福祉施設における虐待等の問題と組織対応の検討を自分なりにしてみました。昨今、高齢者福祉施設における虐待及び不適切ケアは、高齢者福祉施設の規模やケア体制に関わらず何時でも起こりやすくなっています。ご本人自ら、訴えることが困難であり虐待等の問題は、発見しにくくなり、介護事故として報告されれば、問題の隠ぺいや潜在化になっていくことを危惧しています。高齢者福祉施設ケアは、チームケア体制であり、スタッフ単独で行うことは少なく、なんらかの形で複数のスタッフが関与し、適切なチームやリーダーシップが機能していれば、虐待行為や不適切ケアは起きにくい仕組みになっていたはずですが現実は経営者のコンプライアンスの理解が足りずに介護経営を行うトップの意識に疑問を感じる事件が後を絶たないのが現状と言えるでしょう。8月8日付け報道での西宮の福祉施設での給付費不正受給で指定取り消し 運営する事業所が人員配置を偽り、給付費を不正に受給したことで事業者指定を10日付けで取り消されています。これは、経営者が最も犯してはいけない重大なコンプライアンス違反です。人手不足の職場が生まれる原因は、主に2つあります。

- ①人材の流失が激しいこと。
もともと給与水準が低い、人材評価制度が整っていない、運営会社が多様化している。福利厚生・教育環境が充実していない問題を抱えている職場環境の悪循環を生みだしているため、人材が流失するという悪循環が生み出しているケース。
- ②新しい人材の確保が困難で人材採用や補充がうまくできないケース。人手不足でひとりひとりの業務負担が大きくなっている職場では、スタッフは皆、自分の仕事を終わらせるだけで精

一杯になって、周囲への気遣いがおろそかになり、楽しく仕事ができる事業所を目指す理念を掲げた職場環境が殺伐とした雰囲気になり、せっかく新しく入ったスタッフもこの殺伐な雰囲気に慣れずにすぐ辞めてしまう状況が起こるケース。などなどを体験した私が先輩経営者の皆さんにお話しできることは、まず熱血指導でき、「親心」を持って、今働いている人材の流失を防ぐとともに、業務パフォーマンスを向上させることを目指しましょう。介護保険制度が始まって以来どれだ



け、制度が変わり、事務処理に手間がかかり、負担を押し付けられてきたか、業務効率化のための情報を整理し、内容を見直し、配分の再検討を始め、マネジメント職の適性を確認し再配置する。また、個人レベルでのモチベーション向上のための方法も欠かせません。まずは、経営者が情熱を持ち、自ら現場の不満を聞いて適切な処置をとることをお勧めします。協会では、事業所同士の相互評価事業を行っています。ご連絡お待ちしております。

NPO社会福祉振興会 理事長
ななかまど教育学院 学院長
介護指導者 主任介護支援専門員
空知ブロック理事
加藤和也

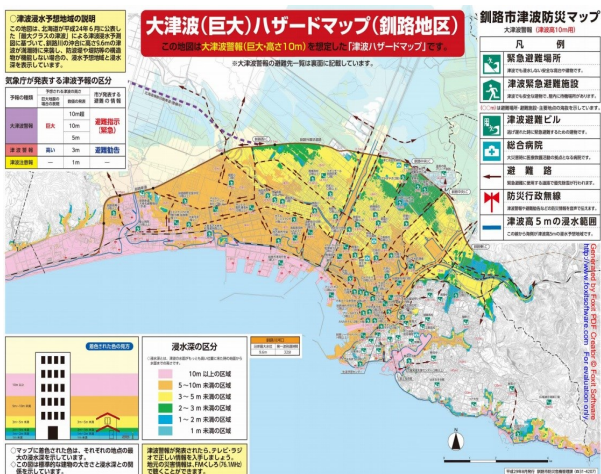
「非常災害対策に思い考えること」

非常災害対策に思い考えること

この度、西日本を襲った豪雨は、洪水や崖崩れを引き起こし、200人以上の方がお亡くなりになり、数十人が行方不明という36年ぶりの大災害となりました。平成28年に北海道で台風の影響による浸水被害が発生したことは記憶に新しいかと思います。その際には北海道各地で被害が起き、交通手段や街の復旧にも大変な労力と時間がかかりました。「日勝峠」に至って



をうむ事もあります。非常災害対策計画が紙面上のものだけにならないよう、各地で起きる自然災害に関心を持ち、自分たちの事と捉え考えていく必要があるのではないのでしょうか。



計画を立て訓練を重ねていても、いざ非常災害が起きた時に、どこまで冷静に判断し、適切な行動がとれるのか…想像すると大きな不安があります。不安を軽減する為にも、日頃からイメージトレーニングや訓練を行い、災害が起きた時に一人でも多くの入居者様の命を守る…その為に災害対策・訓練と同じくらい大切なこと…それは地域との繋がりであると思います。市や各町内会など、地域との関わり合いを持ち、一人でも多くの方と「共に生きる」社会が非常災害時に大きな力になると信じ、私たち道東ブロックでも出来る事を模索し、お互いが手を取り合うことができる環境整備をしていかなければならないと強く想います。

道東ブロック会長 合林 裕也

研修日程と開催都市(予定)

認知症介護実践研修 (実践者研修)

- 第1回(札幌市)
平成30年5月23日～7月17日
- 第2回(旭川市)
平成30年8月1日～9月10日
- 第3回(苫小牧市)
平成30年8月28日～10月22日

認知症対応型サービス事業 管理者研修

- 第1回(札幌市)
平成30年7月17日18日
- 第2回(旭川市)
平成30年9月10日11日
- 第3回(苫小牧市)
平成30年10月22日23日

認知症介護実践研修 (実践リーダー研修)

- 第1回(北斗市)
平成30年7月2日～8月17日
- 第2回(旭川市)
平成30年9月18日～11月6日
- 第3回(札幌市)
平成30年11月19日
～平成31年1月10日

認知症介護基礎研修

- 第1回(旭川市)
平成30年5月15日
- 第2回(釧路市)
平成30年6月22日
- 第3回(苫小牧市)
平成30年7月27日
- 第4回(岩見沢市)
平成30年11月1日
- 第5回(札幌市)
平成31年2月20日

(敬称略)				
ブロック	時期	開催地	事業名	講師等
札幌	未定	札幌市	未定	未定
道央	未定	恵庭市	みんなで考えてみよう！不適切なケアとは	未定
道央	平成30年6月12日	恵庭市	知っておきたい介護技術	奥山洋平 高山瑛太
道央	平成30年9月11日	恵庭市	計画作成担当者研修	釜谷 薫
道央	平成30年11月13日	恵庭市	管理者フォローアップ研修	宮崎 直人
後志	調整中	小樽市	人が活かされチームが強くなる研修	井戸 和宏
空知	平成30年4月25日	岩見沢市	経営セミナー研修	谷本 正徳
道南	平成30年12月6日	函館市	計画作成担当者研修会	釜谷 薫
日胆	平成30年10月6日	新ひだか町	日胆ブロック事例発表大会	宮崎 直人 釜谷 薫
日胆	平成31年1月19日	苫小牧市	日胆ブロック研修会	ケアニン上映
十勝	平成30年6月29日	帯広市	「高齢者の病氣と看取り」研修	堀 哲也
十勝	平成30年10月中旬	帯広市	「アンガーマネジメント」研修	長谷川久美子
道東	平成30年8月10日	釧路市	介護技術研修	田中義行
道北	平成30年10月中旬	旭川市	コミュニケーションスキルアップ研修	坂井 礼子
オホーツク	平成30年7月24日	北見市	ケアプランとその活かし方	釜谷 薫
オホーツク	平成30年10月18日	北見市	これからの認知症ケアとグループホームの役割	宮崎 直人

「実践研究大会」函館10月27日開催

平成30年度実践研究函館大会（事例発表大会）のご案内 『ひとつ』

拝啓 盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび私たちの日頃の実践を多くの皆様と共有する場を設けるため、『ひとつ』をテーマに実践研究大会を企画致しました。皆様にとっては何気ない実践や問題提起が、グループホームの未来を変える力を持っているかもしれません。『ひとつ』が紡ぐ小さな実践が、いつしか大きくなり、認知症の人の未来を変える『ひとつ』になり得ると信じ、是非とも参加される皆様に実践の中に散りばめられた想いをお伝え頂ければと思っております。

また、合わせて大会開催に先立ち、開催前日にシークレットトーク&ウェルカムパーティーも開催致しますので、大変ご多忙の中とは存じますが大会共々多くの皆様にご参加頂けますようお願い申し上げます。

敬具

記

主 催 一般社団法人北海道認知症グループホーム協会 道南ブロック
共 催 一般社団法人北海道認知症グループホーム協会

1. 【シークレットトーク&ウェルカムパーティー】

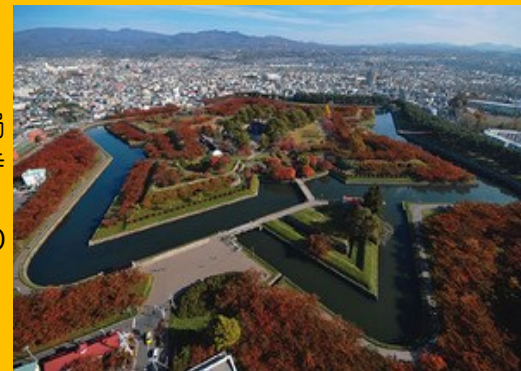
と き 平成30年10月26日（金）17:30～20:30
と ころ 函館国際ホテル 2階 鳳凰 / 函館市大手町5-10
参 加 費 6,000円（税込み）

2. 【実践研究大会】

と き 平成30年10月27日（土）9:10～16:30
と ころ 函館国際ホテル 2階 鳳凰 / 函館市大手町5-10
参加 定員 250名
参加 対象 グループホームの実践に興味のある方
参 加 費 無料
お 弁 当 1,000円（税込み）
（参加申込書による事前注文に限ります 当日販売はございません）

申込み締切 平成30年10月5日（金）
別紙参加申込書をFAXにてご送信下さい

お問い合わせ 大会事務局
グループホーム函館あいの里 小野寺
電話 0138-47-4331
FAX 0138-47-4840
Email: ai_hon03@seancvne.ne.jp



「今回の災害で感じ反省したこと」

今回の災害で感じ反省したこと

7 月2日の夜から3日にかけての大雨により雨竜川が氾濫し、当町の東部地域の避難勧告が発令される。当町の避難指示の周知方法は、各家庭や事業所等に設置されている防災無線と町内放送による放送。さらには町にメール登録されている方に個別発信による周知がなされた。

当グループホームの入居定員は1ユニットの9名（災害当日の利用者も9名）で、平均年齢は84.8歳、平均要介護度は1.9で比較的要介護度は低いものの、常時とまでは言わないが、移動時に車椅子を使用している方が2名いる。



当グループホームは高台に立地しており、避難勧告の発令はされず、さらには、隣接に80床の特別養護老人ホーム、近隣に100床の養護老人ホームがあり、両施設とも福祉避難所の指定を受けており、さらには当グループホームにも、水や食料の非常食を3日分あることからそれほど今回の災害に関しては、私自身の危機感は無かったように思う。

しかし、その数日後の7月9日の西日本の災害が起き、いまさら私自身の危機管理が無かったことを反省している。なぜならば、災害が起きた場合の二次災害のことについてなんら防災対策が無く、電気やガス、水のライフラインがストップした場合や、冬場の対応策が無いことである。今までの考えでは、何かあれば隣接している特別養護老人ホームに助けをもらえばどうかなと考えていたからだ。だが、考えてみれば当グループホームのライフラインがス



トップした場合、隣接している施設もライフラインがストップしていることが考えられ、そうなった場合、隣接の施設に助けをもらえるはずもなく、自分たちでどうにかしなければいけないことを今さら考えさせられた。ライフラインがストップ場合、食事の準備や夜間の電灯、冬場はストーブ、さらにはトイレの水流し等不安



な材料が山ほどあり、資金に余裕があれば、今すぐにでも購入するなどすればよいが、資金の乏しい施設では死活問題である。

今回の反省を踏まえ、2次災害の対策を講じる必要があり、隣接施設以外との協定の締結、必要最低限の備品の購入（電気を使用しないストーブ等）又は借用先の確保等を、災害がいつ起きても慌てふためかないように準備が必要であることを感じた。

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ
施設長 森田 秀幸

「RUN伴、沖縄へ、世界へ、未来へ」道北ブロック

2018年（平成30年）7月1日（日）、今年も「RUN伴（らんととも）」がスタートしました！旭川市が最初に参加できたのは2013年（旭川～大阪）で、2017年にはとうとう稚内市～那



覇市まで全国縦断し、更には海を越えて台湾まで行ってしまうという一大イベントへと成長しているRUN伴ですが、急速に拡大したのはこのイベントの主旨に対し、全国の賛同者が多かったからという理由に他ならないと思います。

さて、今年は難しい天候となりまして、稚内は曇り空、旭川ではあいにくの小雨～雨天となりましたが、参加された皆さまの熱い想いがイベント実施への背中をあと押しし、予定通りの実施となりました。

稚内の地域では112名の参加者！旭川市でもRUN伴+「オレンジRUN!!あさひかわ（後述）」で、延べ



およそ100名超（ランナー+サポーター）の参加となりました。まずは日本のてっぺん（最北端）宗谷岬からスタートし、宗谷地区ゴールの稚内市役所を目指しました。ゴールでは稚内東中学校吹奏楽部の演奏でお出迎え♪。稚内実行委員、稚内市行政、地域や企業などオール稚内の団結力と連帯力！これには視察に来られていたRUN伴の考案者、井出訓先生も驚かれていたに違いありません。そしてここから全国へと繋がって行くのです！

人の居ない地域や、国道など交通量が多くて安全ではないところを走ることはできませんが、最北端からスタートした熱い想いは旭川にも届きました。旭川では、RUN伴Tシャツにも名前が刻まれている

「SOMPOケア」さんから多くの職員ランナーの参加と、なんと！元聖火ランナーという利用者様による力走もありまして、見事な見せ場を作ってくださいました！別ルート南富良野→富良野→上富良野→美瑛と繋がった襷と合流し、深川市へと無事に繋ぐことができました。

前途の「オレンジRUN!!あさひかわ」とは、RUN伴と同じ目的にて旭川市内のみで開催されているのですが、RUN伴があつたからこそ地域を



考えることができ、年々盛り上がっているこのイベントは、今年で5回目となりました。旭川市内で11か所ある地域包括支援センターのうちのひとつからスタートし、旭川市役所をゴールとする行程になりますが、市の福祉課職員の方々はもちろん、西川将人市長から激励のお言葉を頂戴するなど、広く認識されたイベントへと成長しております。

7月28日（土）に札幌テレビ塔で行われたRUN伴

北海道ファイナルラン！には、残念ながら参加することはできませんでしたが、オール北海道としての心は一つです。さあ、認知症になっても安心して住み続けられる日本へ、普及啓発スタートです！

届け沖縄へ。届け世界へ。そして、繋がれ未来へ！

RUN伴 道北地区実行委員会
委員 布重勝彦



『北海道各地オレンジに染める』

RUN TOMO 2018を終えて

RUN TOMO 2018が7月1日から始まり今年のコンセプト『世界をオレンジに染める』というテーマと共に、宗谷岬、鹿追、南富良野地区と3エリア同時開催となり、北海道も各地オレンジに染まった7月となりました。北海道エントリー数、総勢1685名となり多くの皆さまにご参加いた



だきました。7月は週末北海道の各地がオレンジに染まり、7月28日に北海道ファイナルを大通公園から道庁まで練り歩き、



北海道エリアは無事に事故もなく、たくさんの方々の皆さまのご協力のもと開催を終えることができました。毎年徐々にエントリー、新しく地域開催することも多く、又道内のグループホームの参加も増えRUN伴の輪が広がっております。

2011年7月に初めて函館⇒札幌間300キロを福祉関係者、グループホームの参加で始まったRUN伴



に初回から参加をさせて頂いておりますが、年を重ねるごとに開催規模も大きくなり、6年目には北海道から沖縄まで日本縦断となり、2017年には日本を超えて台湾までRUN TOMOが繋がり、RUN伴が目指す社会、①活動を通じてごく自然に認知症の人々と出会う・つながる。②みんながジブンゴ

トとして考える。③それぞれができるアクションをする。改めてRUN伴が地域を動かす力を感じることが出来ました。私は、NPO法人認知症フ

レンドシップクラブで恵庭事務局をしております。この度、北海道認知症グループホーム協会の皆さまから、RUN伴の企画の趣旨に賛同、企業協賛をして頂き誠にありがとうございます。この誌面を通じて御礼を申し上げます。



NPO法人認知症フレンドシップクラブ
恵庭事務局 寺澤道恵

釜谷薫のワンポイントアドバイス

よいチームを作るなら、よいケアをすること。
よいケアをすると、お年寄りが生き生きしてくる。
お年寄りが生き生きすると、施設のムードが明るくなる。
施設の雰囲気明るくなったら、人が集まってくる。
人が集まってくると、人が辞めなくなる。
人が辞めなくなったら、よいチームが作れる。

お年寄りが生き生きするようなケアがチームでできたら人材不足から解放されるよ！！

釜谷薫 北海道認知症グループホーム協会副会長